

FOUN Sing for Smile Program



『国連の友／日本プロ野球名球会 被災地支援活動』 Vol.1

名球会 副理事長 柴田勲 2012年5月12日～

日本プロ野球名球会は、2010年3月より国連の友Asia-Pacificと“スポーツ”を通じた社会貢献活動を行っております。

このたび、東日本大震災被災者支援活動の一環として、被災地で暮らす仮設住民の「心のケア」を目的とした国連の友医師団と共に無料診療活動“FOUN Sing for Smile Program”に参画することとなり5月12日、当団体副理事長である柴田勲が岩手県陸前高田市並びに大船渡市の被災現場視察と仮設住宅での活動に参加致しました。

カラオケカーやセラピードッグを帯同する無料診療活動は、コミュニティの形成の場として仮設住民の皆さまに好評を博していますが、住民の多くが65歳以上の高齢者であることや一人暮らしの高齢者が多いことが孤立化へ繋がる懸念されています。

特にコミュニケーション不足が目立つ男性高齢者に対し、“脳と心の活性化”を図るには、男性高齢被災者の心に英気を与えるきっかけ作りとして、元々野球の盛んな地域であること、また対象世代にとって“プロ野球”が最も身近なプロスポーツであることから、国連の友医師団の要請と被災地からの要望を受け、日本プロ野球名球会が活動に参加することになりました。



復旧の進まない沿岸地域



陸前高田市旧市庁舎にて献花を捧げました

被災地を視察した後、カラオケカーが設置された岩手県大船渡市末崎町にある大田仮設住宅に向かいました。



大田仮設住宅



カラオケカーを楽しみに待っていた子供達

大田仮設住宅では、設置されたカラオケカーの前でオープニングセレモニーが行われ、高橋一年自治会長、名球会柴田勲副理事長、医療団 桧田仁医師、他関係者より挨拶が行われました。



高橋一年 自治会長



オープニングセレモニーには多くの仮設入居者の方々が集まりました



セレモニー終了後、敷地内の集会所に場所を移し柴田副理事長より野球講話を行い、現役時代の話しの中で「この苦難の状況を王貞治さんの努力を惜しまない精神や長嶋茂雄さんの様なプラス思考をもって現状を乗り越えて欲しい」と仮設入居者の方々に励ましのエールを送りました。



和やかな雰囲気の中、仮設入居者の皆様との談話が行われました



一人一人に励ましの言葉を掛けました



カラオケカーを利用して交流を深めました

名球会では今後も引き続き国連の友と被災地共同支援活動を行って参ります。



仮設にお住まいの方々が無料で使用出来るカラオケカー



感謝の気持ちが込められた手作りタオルを頂きました